

【特集】濟州島で東アジアの平和を考える

日韓・日中など東アジアはいま決して平和・平穏とは言えない状況にある。その背景には領土問題や日本の戦後処理の問題がある。しかし政府やマスメディアによる扇動・洗脳圧力を振り払って冷静に考えれば、朝鮮半島や中国に住む人達はもとも日本列島に住む我々と血縁関係にある兄弟姉妹だ。領土領海が広がれば儲かると思っているごくごく一部の連中に、関係のない一般市民・庶民が同調する必要は全くない。政治家達がどう考え何を目論もうと、市民同士がつながり、絆を深くしていけば、平和な東アジアを築いていく流れを邪魔させることはできないはずだ。そんなことを平和祭で考えた。この特集では時間的な余裕もなく、編集者の感想と主に平和会議からの抜き出し程度になったが、これからどうやって東アジアの平和を築いていくか、そこからヒントをくみ取れるのではないかと思う。(あ)

★平和の島・濟州島

JEJU 平和祭は10月17-19日の3日間行われたので前後に余裕をみて16~20日まで濟州島に滞在し、着いた日は会場に向かう途中にある「4.3 平和記念館」に寄り、また20日には平和祭からのカンジョンツアーに参加した。濟州島4.3事件というのは僕自身、名前を聞いた事がある程度でよく知らなかった。要約するならば、第二次大戦直後で朝鮮戦争が始まる前のこと、南北分断を固定化するような選挙(南=韓国側だけでやろうとしていた)に反対した濟州島の人達が「アカ」だとされて韓国軍および韓国本土から来た右翼団体によって虐殺されたという事件だ。それは4月3日の事件が始まりとなって数年続き、虐殺された島民は2万5000人から3万人に及ぶという。実際、共産主義者のグループも少しはいたらしいが、殺されたほとんどは何の関係もない島の人達で、むちゃくちゃの有無を言わせない状況で虐殺が行われたらしい。これについては後でふれる「クロンピ」の映画監督の前作映画「Red Hunt」や商業映画では「チスル」などでやっと描かれるようになったが、韓国では長らくタブーとされてきた。それが

やっと金大中大統領の時に真相究明がはじまり、次の盧武鉉大統領が濟州島に来て島民の前で公式に政府の非を認めて謝罪し、犠牲者の名誉回復に向けた特別法を制定したそう。従軍慰安婦問題は日韓関係に未だに尾をひいているが、この盧武鉉大統領のようないさぎよい態度を日本の首相が表明するのはいつのことだろう。元慰安婦の人達や韓国の人達はきっとそういうものを日本に求めているのだと感じた。そしてこのような悲劇が二度と起こらないようにという願いから、濟州島は平和の島と称されるようになった歴史がある。

★平和祭で平和を考える

平和祭の会場は島の東南内陸部、カシリ村にある馬公園というところにある。これは村がつくった施設で、広々とした敷地で遠くに海が一望でき、また濟州島の象徴であるハルラ山も見渡せる絶好のロケーションだ。ここには元々モンゴルから来たという濟州馬についての展示館があり、また体験乗馬もできる。ところでこれは日本に帰ったあとで知ったことだが、この広大な公園は4.3事件で700人もの人村が虐殺され、持ち主のいなくなった土地を村が管理することになり、その土地を利用して作った場所だという。そういうことを知らぬまま(知ってる人もいたのかもしれないが)平和祭で平和について語られ、平和の祈りが捧げられたのだが、もっと歴史を知る必要を感じさせられた。さてその平和祭は3日間開かれ、コンサートや会議、ワークショップ等々もりだくさんのメニューが同時並行がしていたので、とても一人で全部は見きれない状態だった。祭りの最初と最後にはいろんなやりかたで平和を祈るセレモニーが行われたり平和を祈る踊りや瞑想、セレモニーが会場各所で行われた。またステージで日本と韓国のミュージシャンやパフォーマー達が演じる一方、テントの下やゲルの中では平和会議、女の会議、若者会議、自然農会議で話し合いが続き、また平和を考える映画が何本も上映された。

8月末に山水人でイベントが開かれた際、言い出しっぺで日本側代表の寒平くんインタビューさせてもらった(今号1-2p)時にも他の機会にも、この祭りでは一人一人が他の国の他の言葉を話す人と出会うきっかけになり、それが平和の基礎となればということを知った。そういう場としてこの祭りは十分役立っていたと思う。それが3日だけのつきあいで終わらず、これからどう発展させてゆくのかがこれからの一人一人の課題だ。僕自身もカンジョン村のブースには何度も訪れて話したり、ビデオを撮ったミュージシャンやパフォーマーと話し

たりして、Facebookの友達は何人もできた。(うち韓国の人は6人)

また会場ではこの特集のためにと思ってアンケートをとった。日本語と韓国語で質問用紙をつくり、ビデオを撮りながらなので専念できなかったが、それでも50人以上の人に回答してもらえた。内訳は韓国語の回答が29枚、日本語が22枚。たとえば質問の1つの「平和をつくるために、私たち市民が具体的に実践できることは？」には、大まかに言って「自分自身が幸せになる、平和になる、ありのままに生きる」など自分自身の心の中の問題に焦点をあてたものと「つながる、交流する、友達になる、思いやり、分かち合い」など他者との関係性に焦点をあてたものに分かれた。この新聞はいつもほとんど無計画・出たとこ勝負で作ってるもので、アンケートを詳しく紹介するスペースが無くなってしまった。答えてくれた人、どうもありがとう!

★平和の島に軍事基地が

この平和の島と呼ばれてきた濟州島だが、島の南部のカンジョン村にいま海軍基地が建設されている。ここは韓国海軍の基地だという建て前だが、実際には米空母が入港できるような規模でつくられており、中国をにらむ基地として使いたいアメリカの思惑が透けて見える。平和祭終了後の翌日にもたれたカンジョン村ツアーに参加して、ピースセンターや村内のあちこちを案内されて村の人たちの話が聞けたので、だいぶ理解できるようになった。その話では、カンジョンをはじめとして濟州島の南岸にいくつもの基地をつくり、軍事ベルト地帯ができつつあるという。沖縄と同じような基地だらけの「平和の島」になろうとしているのだ。このカンジョンの人達の何年にも及ぶ闘いを追ってきたドキュメンタリー映画「クロンピ〜風が吹く」は前号でも監督の友人の田恩伊さんが紹介しているが、平和祭の会場の大きな野外スクリーンで上映されたものを初めて見た。だいたい内容は頭に入っていたが、やはり文字で知ると映像で見るとはだいぶ違う。自分がその場にいるような錯覚を覚えさせる映像の力は大きい。そのため当日映画を見た何人かの人達から日本でも上映したいという声があがり、今後もう少し編集・完成したのち、来年3月ころをめどに監督も招いて各地で上映会のツアーをしようということになった。今月中にはそのためのサイトを立ち上げ、FBのグループもつくったので、関心ある方はぜひ参加してください。「クロンピ」上映実行委員会サイトは：<http://amanakuni.net/gureombi/> (編集部・浜田)